



# 報告 平成29年 西来寺 報恩講 記念講演 ひろ さちやさん

2017年10月29日日曜日、日本列島に上陸した台風22号が関東に近づく豪雨の中でしたが、多くの方にご参詣いただき、奇跡的に満堂となりました。



6名の僧侶による法要

お経の声は心に沁みわたり美しく本堂に響き  
わたりました。

「南無そのまんまそのまんま」私は一日二回か三回はこの言葉を唱えます。去年の報恩講でひろさちや先生に教えていただきながら、ほとんど毎日です。殆ど菩提寺との繋がりもなく、両親も健在で、お寺や仏教なんて自分にはまだ必要ないものだ。あんまり関係ないや。という気持ちでサラリーマンをしていた私には阿弥陀様の御心もなかなか理解できずになりました。大病を機にサラリーマンという道を外れ「もう自分には人並みの価値はない、仕事を失った恥を隠して生きていかなければいけない、どうにもならない」そういった気持ちを全て包んで許してくれたのが、ひろ先生の魔法の言葉「南無そのまんまそのまんま」でした。この世は人間の努力では、どうに

今年の報恩講ではひろ先生とお話しする機会がもてました！10分ほど話した中で「君は馬鹿だな」と10回くらい先生に言つていただきました。「私は馬鹿だな」という言葉もこれから毎日唱えることにしました「馬鹿な自分そのまんま、南無そのま

美味しいお料理に会話もはずみ、「皆さんおつかれさまです」と笑顔で喜びを分かち合いました。

ユーモアと優しさあふれる言葉に本堂がわいた90分間、先生は座ることなくお話ししてくださいました。



外は台風、警報発令中。法要が始まる頃にはなんとか雨脚が弱まり、やがて本堂には続々と人が集まり、満堂となりました。横須賀市外からも（北海道からも！）来られた方がいらっしゃいました。

「おおぜいの人の前で話すの慣れてるからね。ぜんぜん緊張しなかったですよ。」  
(司会進行を務めてくださった川島さん)

講演後、98歳の門徒さん永島文江さんがひろ先生に花束を贈呈しました。永島さんはスコア200をたたき出すほどのボーリングの名手なのです！

ひろ先生のサイン本 争奪ジャンケン大会。自ら争奪戦に参加するべく こっそりジャンケンにくわわるひろ先生(笑)

報恩講の後、場所を変え衣笠へ。ボランティアでお手伝いしてくださった方々と、洋食屋 Rico カウベルさんで懇親会がおこなわれました。

ひろ先生の笑顔につられてピース

本堂の前には水たまりができ、山門の階段も雨で滝のよう。ときおり吹く風も強く、前日掃除したのにイチョウの落ち葉だらけになっていたほどでした。

## 前日準備

前日は、報恩講のために特別な飾りつけをみんなでおこないます。たいへんですが、お話ししながらの作業はなかなか楽しいものです。

ご本尊にお供えするお餅、お華東（おけそく）の組立も、なかなかたいへんです。

真田紐（さなだひも）だけでとめている打敷（うちしき）に、工夫して作った自作の秘密兵器を使ったり

みごとに生けた仏様のお花、花瓶が倒れないように、絶妙なバランスで生けます。報恩講当日、一般聴講の方が、お花きれいって言ってくれて、嬉しかったです。

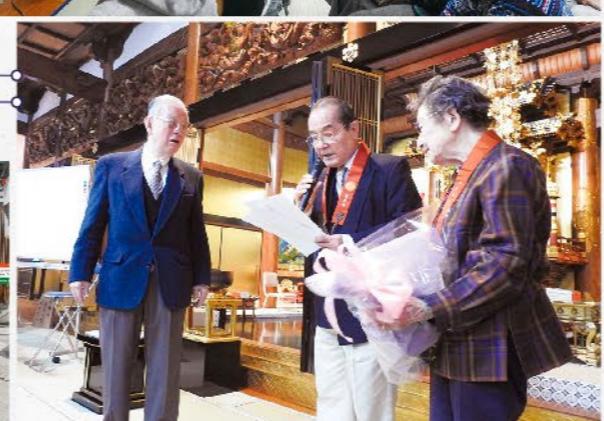


先生の印象は？

まるい方（笑）  
フワーッとあたたかい、

報恩講のスタッフとして、ひろ先生の送迎係をされた鈴木博子さんにお話を伺いました。  
坊守が作つてくださった「ひろ先生ようこそ」と書かれたプラカードを手に、横須賀駅の改札口で先生を待っていました。台風の影響でこの

行つて来ますね」つて、また駅の方に戻つて行っちゃつたんです。お会いした瞬間、たつた二言で私の不安と緊張を、手品のようにふわっと解いてくれたんです。だから、私の先生への印象は、ふわっとあつたかい、まるい方。ですね（笑）



電車に乗つてなかつたらどうしようと思うと、プラカードを握る手には力が入り、大粒の雨音に不安は増す一方でした。

先生が乗つているはずの電車がホームに到着し、次々と降りてくる乗客の中に、ひろ先生のお姿が見つけられません。どうしよう、私の不安が一杯になつたところで、先生は最後に改札に現れました。私を見つけると「会えてよかったです」と、にこやかに声をかけてください。